

2014年度国際交流基金賞受賞者が決定

～「落語家 柳家さん喬氏」、「オーストラリア国立大学名誉教授 ピーター・ドライスデール氏」、
「モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科」～

世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する、日本で唯一の専門機関である国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、1973年以来、毎年、学術、芸術などの文化活動を通じて、日本と海外の相互理解の促進に長年にわたり顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」を授賞しています。このたび、第42回目の授賞となる2014年度の受賞者が決定しました。

〈2014年度受賞者・団体〉

- ・ 落語家 柳家さん喬氏
- ・ オーストラリア国立大学名誉教授 ピーター・ドライスデール氏
- ・ モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科

*基金が定める国順。各団体の詳細は後頁ご参照

〈国際交流基金賞について〉

国際交流基金では、設立翌年の1973年より毎年、学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に長年にわたり特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人または団体に国際交流基金賞を贈呈しています。昨年の第41回国際交流基金賞の受賞者は、ハーバード大学名誉教授入江 昭氏、舞踏カンパニーの山海塾、泰日経済技術振興協会でした。

〈国際交流基金について〉（URL: <http://www.jpf.go.jp/j/index.html>）

国際交流基金は世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。国内に本部（東京・新宿）と京都支部、2つの付属機関（日本語国際センターおよび関西国際センター）、海外21カ国に22の海外拠点を持ち、文化芸術交流、海外における日本語教育および日本研究・知的交流の3つを主要活動分野として、世界の人々と日本の人々の間でお互いの理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

【本件に関するお問合せ】

国際交流基金 コミュニケーションセンター 横田、宮田
TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 e-mail: kikinsho@jpf.go.jp

【本件に関する報道関係者お問合せ】

国際交流基金賞 広報担当 日本パブリックリレーションズ研究所 横田、高野
TEL:03-5368-0911 FAX:03-5269-2390 e-mail: japanfoundation@japan-pri.jp

◆柳家 さん喬 (落語家)【日本】
Sankyo Yanagiya [Japan]



写真左：ブタペスト落語公演会。右：アメリカ・ミドルベリー大学での落語公演会。

1948年8月4日生まれ。1967年に五代目柳家小さんに入門し、1981年に真打昇進。古典の人情噺や滑稽噺を得意とする実力派。日本全国で寄席や独演会の高座に出演し、五代目小さん一門の高弟として弟子や後進の育成に励む傍ら、日本語学習者に小噺をさせることで、落語を通して日本語表現や日本文化理解を深める活動を継続している。とりわけ、2001年から行われている筑波大学留学生対象の落語会では、落語を通して日本語表現法や文化を教えるために企画段階から参加。2006年以降毎年実施している米国ミドルベリー大学夏期日本語学校における落語公演・小噺指導のほか、韓国、シンガポール、チェコ、ハンガリー、フランス、ポーランドなどにおいて公演・指導を行っており、その活動は、各地の日本語教育関係者から高く評価されている。

1987年選抜若手演芸大賞真打部門大賞受賞。2013年第63回芸術選奨文部科学大臣賞（大衆芸能部門）受賞。2006年落語協会常任理事就任。芸術表現としての落語の魅力を生かしつつ、国内および海外における日本語教育に対する長期にわたる継続的取り組みが高く評価され、今回の授賞が決定。

◆ピーター・ドライスデール (オーストラリア国立大学名誉教授)【オーストラリア】
Peter Drysdale (Professor Emeritus, The Australian National University) [Australia]



1938年10月24日生まれ。オーストラリア国立大学にて日豪経済関係で博士号を取得。1980年に日豪両国の官民協力の下で同大学内に設立された豪日研究センターの創始者。東アジア及び日本経済の政策研究で世界的に知られており、特にアジア太平洋地域における経済協力を力点を置いたその研究は、APEC（アジア太平洋経済協力）の創設にも大きな役割を果たした。

著書『アジア太平洋の多元経済外交』（英語版 Allen & Unwin and Columbia University, 1988; 日本語版 毎日コミュニケーションズ、1991）でアジア調査会及び毎日新聞社主催のアジア・太平洋賞を1989年に受賞。1998年オーストラリア社会科学学術会議（ASSA）フェロー、2001年日本政府より旭日中綬章を受章。現在は同大学の名誉教授である他、東アジア経済研究所長と東アジア

フォーラム編集長も務めている。長年にわたる日豪間の相互理解促進への貢献が高く評価され、今回の授賞が決定。（写真：ピーター・ドライスデール氏）

◆モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科【ロシア】
Institute of Asian and African Countries, Moscow State University,
Japanese Department [Russia]



写真左：モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学校舎正面、 右：同学科の教員と学生。

モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学 日本語学科は、約 260 年の歴史を持つモスクワ国立大学の一機関として、東洋語大学（アジア・アフリカ諸国大学の前身、1972 年に改称）が創立された 1956 年に開設。以来、ロシアをはじめ、旧ソ連地域における日本語教育の中心的な役割を担い、日本語教師・研究者の育成や日本語教材の開発に尽力。同学科の卒業生はロシア及び旧ソ連地域をはじめ、ハンガリー・ドイツ・ベトナム・中国・モンゴル等、各地の大学で日本語教育の開始・普及に携わり、同学科の開発教材はこれらの国でも広く活用されてきた。また同学科は、卒業後に同大学の大学院に進んで日本語理論や日本文学を専攻した教師も多数輩出しており、日本語教育と共に、日本語文法論・語彙論・文体論・翻訳論や日本文学の研究にも力を入れ、多数の書籍を出版している。

90 年代以降は、日本語教育を開始する大学・学校等が大幅に増加した中、ロシアの中核的日本語教育機関として学校設立や教員の供給を支える他、生徒の学習意欲向上を図る一環として、同学科卒業生が中心となって組織された「ロシア日本語教師会」を通じ、学生を対象とした「モスクワ国際学生日本語弁論大会」や「子供日本語祭り」を企画・実施。昨今急速に拡大しつつある初等・中等教育における日本語教育の導入も、同学科が付属校において先鞭をつけた実績がある。同学科の卒業生は開設以来約 2000 名にのぼり、教職はもちろんのこと多方面で幅広く活躍しており、日本語理論・日本文学・日本文化の研究、日本映画や小説等の文化コンテンツ普及、日露外交・経済関係の拡大にも貢献している。また同学科卒業生を中心とする前出の「ロシア日本語教師会」は、設立 25 周年を迎えた 2012 年に外務大臣表彰を受賞。文化交流を支える日本語教育に、同地域で 50 年以上にわたって尽力し、日露両国間のかけ橋として貢献してきたことが高く評価され、今回の授賞が決定。

【本件に関するお問合せ】

国際交流基金 コミュニケーションセンター 横田、宮田
 TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 e-mail:kikinsho@jpf.go.jp

【本件に関する報道関係者お問合せ】

国際交流基金賞 広報担当 日本パブリックリレーションズ研究所 横田、高野
 TEL:03-5368-0911 FAX: 03-5269-2390 e-mail:japanfoundation@japan-pri.jp